

(様式第4号)

上田市上下水道審議会 会議概要

1 審議会名	平成29年度(第5期)第9回上田市上下水道審議会
2 日時	平成29年7月26日 午後2時から午後4時まで
3 会場	南部終末処理場2階会議室
4 出席者	久保山会長、田中副会長、池内委員、金井委員、吉川委員、関委員、鷹野委員、高橋委員、中山委員、長尾委員、鳴沢委員、本間委員、松本委員、宮岸委員、山宮委員、山本委員
5 市側出席者	宮澤上下水道局長、城下経営管理課長、滝澤サービス課長、小井土上水道課長、松井下水道課長、上原浄水管理センター所長、藤極丸子・武石上下水道課長、越真田上下水道課長 (以下経営管理課)黒岩課長補佐兼経理担当係長、町田経理担当係長、青井庶務係長、庶務係清水
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成29年7月31日

協 議 事 項 等

1 開会
2 会長あいさつ
・ 昨年度は上下水道料金の審議、答申や経営戦略といった重要な案件について審議いただき改めて御礼を申し上げます。
・ 本年度についても上下水道事業について理解を深めていただき、また皆さんの貴重な御意見を出していただけたら大変ありがたい。
3 人事通知書交付と審議会委員自己紹介
・ 委員変更に伴う新任委員に人事通知書交付及び各審議会委員自己紹介
4 上下水道局出席者自己紹介
5 上下水道局長あいさつ
・ 昨年度は重要事項が二つあり、ひとつは本年度から4年間の料金について審議いただき、最終的に料金を据え置くということで答申いただき、市でも答申を尊重し据え置くことで経営を進めていくことになった。
・ また、今後10年間の投資・財政計画のバランスを見た経営戦略を策定させていただき、皆様のご承認を得た上で3月には最終的に経営戦略として公表したところである。
・ 今後も上下水道事業はライフラインとして重要な施設であるので、持続可能な経営に努めたいと考えている。
・ 使用水量が頭打ちとなり、一方で老朽化した施設の更新、あるいは耐震化等進めていく必要があり、非常に厳しい経営環境となっている。そうした中、経営戦略に基づいた経営を進めてまいりたいと考えている。
・ 委員の皆様には経営関係や色々な上下水道事業について審議いただくが、活発な御意見をいただきまして今後の上下水道事業の経営に生かしていきたいのでよろしくお願いしたい。
6 議事
(1) ペットボトル水「菅平の天然水」について
○事務局より資料6に基づき説明(議事の(6))としていたが先に説明)
・ 委員からの意見・質問なし

(2) 上下水道局審議会について

○事務局より資料1に基づき説明

・委員からの意見・質問なし

(3) 上下水道局重点目標について

○事務局より資料2に基づき説明

・委員からの意見・質問なし

(4) 平成29年度予算の概要について

○事務局より資料3に基づき説明

・委員からの意見・質疑応答は以下のとおり

(委員) 公共下水道事業と農業集落排水事業の中で、それぞれ資本的収支について収入が支出に対して不足するものに対して使用料収入などで補てんするとなっているが、補てんに対して十分な準備があるのか。

(事務局) 毎年度の純利益の蓄積に加えて、現金の支出を伴わない減価償却費が財源となる。ただし、長期前受金戻入は現金の収入を伴わないので、財源から除外する必要がある。

(5) 上田市上下水道局と県企業局との「災害時連携協定」の締結について

○事務局より資料4に基づき説明

・委員からの意見・質問なし

(6) 簡易水道統合整備事業について

○事務局より資料5に基づき説明

・委員からの意見・質問なし

7 その他

・全体を通しての委員からの意見・質疑応答は以下のとおり。

(委員) 最近気になっているのが、水害等異常時の事故が各地で起きている。特に局地的な集中豪雨が起きている。上田市は非常に広い範囲であり、集中豪雨があったときには山の側が一番被害が出る。菅平や美ヶ原で被害が出たとき、今の進め方でいった場合、人員の問題もあるが、緊急時の出動体制、連絡体制といったプランや配慮されている面があれば説明いただきたい。また、具体的にイメージしてシミュレーションをして考えられている点があれば説明いただきたい。

(事務局) 災害の対応について、近年集中豪雨の非常に大きな災害が起きている。現在の局の体制として丸子自治センターには丸子・武石上下水道課、真田自治センターには真田上下水道課、施設を中心に維持管理する浄水管理センター、管路や計画を中心とする上水道課といった分散した体制で組織されている。それぞれ地域ごと起きた災害についてはその地域プラス浄水管理センターも含めて体制を取っているが、大きな災害が起きたとき例えば給水車が必要となれば局全体での体制をとっている。これでも足りない場合は、長野県水道協議会が中心となり長野県内の水道事業体が応援に駆け付ける体制がとられている。さらに足りなければ日本水道協会中部支部が中心となり長野県を取り巻く中部地方の9県から応援、さらにとなれば全国からという組立で水道災害の復旧に関する体制がとられている。上田市の場合幸いそこまでの災害を今まで経験していないので、それを受け入れる体

制も含めて、他から入ってくる応援部隊を受け入れる場合の宿泊や食事、駐車場等を考えながら今後そういった訓練等にも参加し、災害に強い上下水道という意識で取り組みたい。

- (委員) 昨年地元で思いもよらない災害に見舞われ地区で対応した際に、あの時そうしておけば良かったとか今度そうしようという反省ばかりであった。事前に大事な命の水の供給源や下水道について、大変地道なことなのかもしれないが、普段からいざという時のシミュレーションや訓練、地域住民への広報等は後で禍根を残さないよう対応いただきたい。
- (委員) 災害について、最近では1日に1か月分の降雨量が降るといった状況がある。上下水道に限らないが市の防災計画と言った中で、こういった状況も検討されているのか、これからされていくのかそういった対応も必要ではないか。市の防災計画もあり、県等もあると思うが、関連をしながら具体的な検討をお願いしたい。
- (局長) 河川については時間雨量50ミリを想定して設計されている。実際最近では100ミリを超える時間雨量で降っている。河川全部を改修するという事は直ぐには対応できる状況ではないが、国なりに方針を定めた上で緊急的な対応措置をどうしていくかが決まってくると考える。県、市町村の河川関係でさえそういった状況なので、時間雨量100ミリを超える雨量が何時間も続くという状況を現在のところ予測しておらず、想定外の雨量ということで直ぐに全部対応することは不可能なので、災害時の緊急避難の指示等に注意してもらい、一義的には直ぐには行政機関のもつ警報に対して敏感にまた高齢者等については早めに対応してもらい、まずは命の方を守っていただきたい。水道については、風水害に対しての対応が一義的に直ぐにはなかなかできない状況である。今のところ地震関係についての耐震関係はそれなりに事業としては進めている。今回の福岡の場合水源の一部が使用できず、断水状況であるが、国や日水協の応援を受けて緊急のろ過施設を設置し通水を始めていると聞いている。そのように直ぐに事前に特に大雨に対して対応することは水道の場合なかなか難しいので、最終的には被害が起こってからになってしまいが全国的な支援もいただきながら対応していきたい。
- (委員) (災害に対する対応にも) ソフト面とハード面とがあるが、ハード面は直ぐには対応は難しいが、災害があったら直ぐに逃げる体制を準備していき、各地区で検討することも是非指導いただきたい。
- (委員) ペットボトル水については値段はいくらになるのか。
- (事務局) 局としては儲けを考えて製造していない。あくまでPR、備蓄を目的としている。イベント等では無償で配布する予定。販売については観光協会にまとまった本数を出して、そこから傘下の団体へ卸してもらおう。今までの実績では上田市役所売店では108円で販売していた。自販機での販売はしていない。
- (局長) 信州上田観光協会に卸し、後は小売する方で設定してもらおう。上田市役所売店では消費税込み108円で販売。基本的には販売目的というよりPR目的の方が強いので、水道局が儲けるというレベルの話ではない。あと昨年の熊本地震の際に2千本程度地震後の飲料水として送り、災害時に他市町村等へ送って使ってもらっている。
- (委員) 予算の概要の中で、水道の給水戸数が57,000件、公共下水道と農集の合わせた排水件数61,100件あり、給水戸数と排水戸数に差があるが、この差はどうしてなのか。
- (事務局) 上田市内で市で水道を供給しているエリアと県で供給しているエリアがあるため、県の供給エリアは除いているための差。
- (局長) 下水道は市内全域だが、水道は県水エリアを除いたエリアとなるため差が出る。

事務局より事務連絡

8 閉会

以上